

新型コロナウイルス感染対策に伴う 講義室定員制限対応のための 対面推奨学生選抜制度の実施

横平 政直 (医学部教授)
日下 隆 (医学部教授)
住谷 和則 (医学部教務職員)
末吉 由佳 (医学部教務職員)
坂東 修二 (医学部准教授)
岡田 宏基 (宇多津病院) *

1. はじめに

我が国での2020年1月頃からの新型コロナウイルス感染拡大により、社会生活は大きく制限されることとなった。2020年4月中旬には、本学では講義科目において対面授業は行わず、オンラインによる遠隔授業とするという基本方針が示された。以降、感染拡大状況に応じて、完全オンライン授業またはハイブリッド授業（オンラインと対面を組み合わせる）の導入について、全学的な授業対応方針が随時打ち出された。2021年度もコロナ禍の影響が続き、医学部では主にハイブリッド授業が行われた。

医学部におけるハイブリッド授業とは、前述のとおり、受講はオンライン動画視聴と対面出席とのどちらでも可とし、オンラインでレポートを提出することによって、出席扱いとする授業である。ハイブリッド授業は、「密」の回避を目的に講義室の定員の50%を上限として学生の対面受講受け入れを可能とするという本学の基本方針に沿うものである。一方で、ハイブリッド授業の対面出席を完全に学生の自由意志に委ねた2021年度において、実際の対面出席者数は、科目にもよるが、平均1割程度であった。このため、学生はオンラインでのオンデマンド動画視聴による学習が主流となった。同時に、学生の試験成績の格差が顕著になった。すなわち、成績上位層の学生はより優秀な成績を収め、成績下位層の学生はさらに成績の低迷を示す傾向が見られるようになった。成績上位層の学生はオンライン動画導入によって、理解困難な箇所は何度も繰り返し再生視聴するなどし、より学習効果を上げた。一方で成績下位層の学生はできるだけ最小限の努力でレポートを作成して出席回数を稼ぎ、試験においては成績が低迷する傾向に陥った。また、教員からは、学生が大学に来ないことについて、大学への愛校心の低下、先輩後輩のつながりの希薄化、それに伴う人間形成の脆弱化、生活リズムの乱れ等の悪影響を危惧する声が多くなった。この状況を打開するため、学生の出席率を向上させる方法を思案した。学生番号の偶数奇

* 香川大学医学部協力研究員・前香川大学医学部教授

数で出席日を決める等の機械的に出席計画を作成する案もあったが、成績下位層の学力を向上させることが重要と考え、この点を重視した対面推奨学生選抜制度（以下、対面推奨制度）を採用した。

医学科1年生は収容定員の十分な講義室を使用し、全員対面出席を基本として授業を行っている（講義室定員の50%以下の出席者数を遵守している）。これは新入生にとっては、メンタルヘルスやパソコンスキルの低さ、組織への帰属意識が低いことなどから、対面講義の重要性が非常に大きいためである（蓮沼ら、2021、233-240頁）。3、4年生はユニット講義（多科目が同一テーマで授業を行う水平垂直統合的授業）や実習科目が多く、5、6年生は臨床実習が中心となるため、これらの学年の対面推奨制度の導入は難しいと考えられた。以上から、対面推奨制度は、学年全員がほぼ毎日同じ講義室で受ける医学科2年生を対象とした。今回、アンケート結果の解析を含めてこの制度について実施報告する。

2. 方法

2-1. 対面推奨学生選抜

医学科2年生は通常、大C講義室（通常定員139名）で授業を受ける。2021年度の完全自由意志による対面参加での自由参加者が最も多い科目の授業では、最大は30名弱の対面参加者数であった。この人数と講義室の50%定員上限の69人を超えないことを考慮し、対面推奨学生数の上限人数を40人程度と設定した。

1年次のGPAの成績下位者から25人、1年次授業担当教員からの推薦5人（当該科目の成績不振者）、留年者16人、の合計46人（留年者は不合格科目のみ出席するので、1つの授業での最多参加者は41人となる）を選抜した。

選ばれた学生については対面出席時のみ出席扱いとするように授業担当教員に周知徹底した。

2-2. アンケート

医学科2年生全員と2年生授業担当教員を対象とし、Microsoft Formsを用いてアンケート調査を行った。アンケートの対象期間は2022年4月～7月とし、アンケート調査期間は2022年7月27日（水）～7月31日（日）とした。アンケートの冒頭には「このアンケートは対面推奨制度について学生さんの意向を調査し、今後に役立てるものです。このアンケートの結果について、学会や学術雑誌に発表する可能性があります（個人情報公表されません）」と記載し、無記名での回答は完全に自由意志によるものとした。

アンケートの質問項目は、以下の通りである。

A、学生対象アンケート

- 1、あなたは対面推奨に選ばれた学生さんですか？（はい/いいえ）
- 2、対面推奨制度について成績が良くなると思いますか？（はい/いいえ/どちらでもない）

- 3、全体的に対面推奨制度について良いと思いますか？（はい／いいえ／どちらでもない）
- 4、3の理由を書き込んでください（理由なしの場合は空欄で構いません）。
- 5、その他、ご意見等があれば自由に書き込んでください。

B、教員対象アンケート

- 1、これまでに2年生の対面推奨制度が導入されている授業を担当されましたか？（はい／いいえ）
- 2、対面推奨制度が学生の成績向上につながると感じますか？（はい／いいえ／どちらでもない）
- 3、全体的に対面推奨制度について良いと思いますか？（はい／いいえ／どちらでもない）
- 4、3の理由について書いてください（理由がない場合は空欄でも構いません）
- 5、その他、対面推奨制度について自由にご意見を記載ください。

3. アンケート結果

学生対象アンケートは69件回収し（回収率：60%）、全件について有効回答とした。教員対象アンケートは19件回収した。2件は対面推奨制度の導入授業の担当教員ではない教員からの回答であったため、また、2件は「質問4」の自由記述内容が同一であり、明らかな重複回答であったため、計4件を対象外とし、15件を有効回答とした。

以下はアンケート結果のまとめである。

表1 学生対象アンケート結果

学生対象アンケート	はい		いいえ		どちらでもない		計	
	(人)	(%)	(人)	(%)	(人)	(%)	(人)	(%)
(全員)								
あなたは対面推奨に選ばれた学生さんですか？	17	24.6	52	75.4	(選択肢なし)		69	100.0
対面推奨制度について成績が良くなると思いますか？	14	20.3	31	44.9	24	34.8	69	100.0
全体的に対面推奨制度について良いと思いますか？	17	24.6	22	31.9	30	43.5	69	100.0
(対面推奨：17人)								
対面推奨制度について成績が良くなると思いますか？	2	11.8	8	47.1	7	41.2	17	100.0
全体的に対面推奨制度について良いと思いますか？	2	11.8	6	35.3	9	52.9	17	100.0
(非対面：52人)								
対面推奨制度について成績が良くなると思いますか？	12	23.1	23	44.2	17	32.7	52	100.0
全体的に対面推奨制度について良いと思いますか？	15	28.8	16	30.8	21	40.4	52	100.0

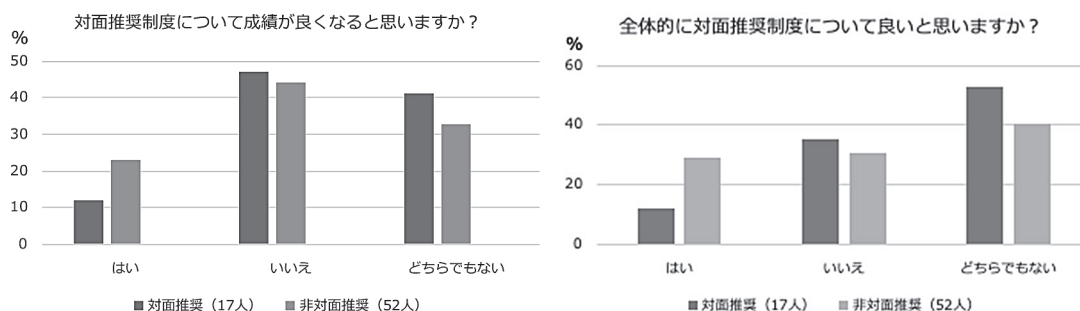


図1 対面推奨の選抜学生とそれ以外の学生との評価の比較

学生対象アンケートの自由記述欄に複数回答があった主な内容について、肯定的意見では、生活のリズムが整うから、しっかりと授業を聞ける、学生同士の交流ができる、などであった。一方で、否定的意見としては、オンライン受講の方が効率が良い、学生の選定方法に納得がいけない、選ばれても授業に出ない学生がいた、選抜された理由がよく分からない、であった。「どちらでもない」と答えた学生の理由の多くは、自分自身にとって対面授業は良いと思うが、他の学生にとっても良いとは限らない、であった。

表2 教員対象アンケートの結果

授業担当教員対象アンケート	はい		いいえ		どちらでもない		計	
	(人)	(%)	(人)	(%)	(人)	(%)	(人)	(%)
対面推奨制度が学生の成績向上につながると感じますか？	10	66.7	0	0.0	5	33.3	15	100.0
全体的に対面推奨制度について良いと思いますか？	11	73.3	0	0.0	4	26.7	15	100.0

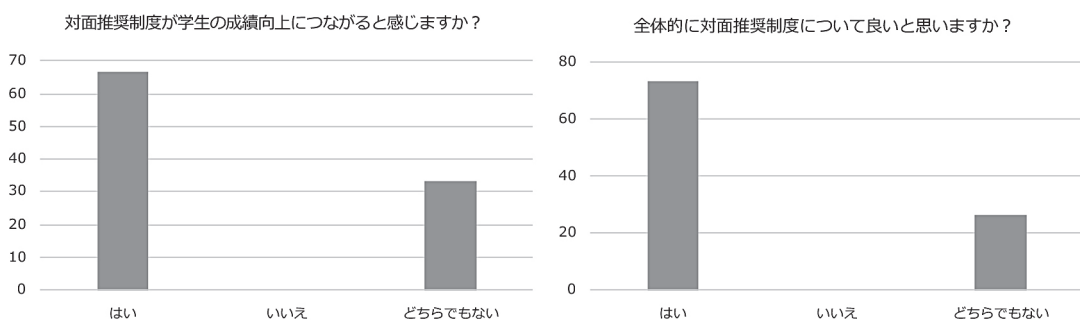


図2 対面推奨制度への教員側の評価

教員対象アンケートの自由記述欄に複数回答があった主な内容について、肯定的意見では、少なくとも生活リズムの改善につながる、対面出席者の成績は改善傾向がある、教員側としても指導に張り合いがでる、顔の見える教育が必要、今後も続けてほしい、などであった。本制度に反対する否定的意見はなかったが、改善すべき点として、次の2点の指摘があった。自由意志で出席可能な対面非推奨学生は授業に出にくい雰囲気となることがあり、対面推奨学生は座席指定して、教室内の区画分けを行い、格差をつけたほうが良い。

対面「推奨」学生なのに、文書には対面「義務」学生との表記、「推奨」学生から対面を「免除」してほしいとの問い合わせがあるなど、「推奨」の中身についての共通理解が不十分なところがあった。

4. 考察

学生アンケート結果について、選抜学生と非選抜学生のいずれも、同様の傾向であり、学生にとっては本制度を否定的に考える人が多いことが分かった。自由記述欄では、選抜学生の「どちらでもない」を選んだ人は、「自分にとっては良かったが他の学生はどうかわからない」との記載が複数あった。また、非選抜学生から選抜学生に対し、「重すぎる措置だ」「かわいそう」などの意見があった。本来、大学での講義は対面が基本であるにもかかわらず、学生にとって対面出席は罰ゲームであるかのような感覚を有していることが伺えた。オンライン講義は対面講義に匹敵するかそれ以上の教育効果が得られるとの報告がある（大橋ら、2021、73-82頁）。学習の効率性という見地からはオンライン講義は確かに非常に優れている。しかしながら、医学教育とは机上の学習のみで成り立つものではなく、学生の意見は「学習の効率性」を偏重した結果とも推測される。

教員側は、圧倒的に本制度に対して肯定的意見が多かった。講義室に学生の出席者数が多いと授業を行う教員のモチベーションの格段の向上につながったことも大きいと推測される。また、学生にとっても良い制度であると考える教員が多かった。教員側は学生にとって良い制度と考えているが、これは学生側の意見と乖離していた。学生は本制度のメリットについて、卒後などの遠い将来になってはじめて理解できるのではないかと推測されるため、この乖離は現段階では許容すべきであると考えられる。実際の成績向上につながったかについては教員側のアンケートの「成績向上につながっている」という意見があった。成績下位層の学力を向上させることを目的にこの制度は導入された。そのため、学生試験を解析するなどの厳密な成績変化についての検証は非常に重要である。しかし、厳密な検証は、本制度対象学年の成績は年度ごとにかなり差があることから、過去の同学年の成績との単純比較では結論を出せないことが推測される。今後の経験の蓄積に期待したい。

一方で、教員側から要改善点を指摘する意見もあった。特に、2点について今後の改善が望まれる。まず、本制度の名称に関して、選抜学生の出席は義務として運用しているため、「推奨」を外し、「対面学生選抜制度」と変更すべきである。次に、非選抜学生への配慮も必要であり、特に講義室のゾーニングは検討すべきであろう。これは教員側からの指摘であったが、ごく少数の学生ではあるが、「対面推奨学生が出席しているので出席しづらい」「良い席がない」という意見があった。選抜学生用の座席ゾーンを定め、非選抜学生への配慮の検討が必要である。

また、「選ばれなかった学生の中には、対面授業に出なくても良いお墨付きをもらったと捉えている学生がいるようだ」という教員の意見があった。学生の「対面＝罰」という認

識を改める必要がある。対面講義の利点として、「対面講義は知識を得ること以外に母校への帰属意識を持つことや、学内での集団行動を通して医療従事者として不可欠な社会性を修得できるという利点があり、遠隔講義ではこれらを補うのは困難かも知れない」と報告されている（松本、2021、33-38頁）。教員側はこれを重要視しているものの、学生側はこの重要性を認識していないと推測される。現時点での学生の満足度は重要ではあるものの、教育の目指す目標として、将来に学生が現在の医学教育への満足感を得ることも大きい。新型コロナ感染対策を要する期間が長期となり、本来の大学講義のあり方が薄れつつある現在、対面授業の重要性を見直し、学生に再教育する必要がある。この制度の目的やメリットについて、選定基準と合わせて、学生に十分に周知徹底する必要がある。

5. おわりに

新型コロナウイルス感染対策に伴い、ハイブリッド授業が導入され、「密」の回避を目的に講義室の定員の50%を上限として学生の対面受講受け入れ可能となっている。このため、成績下位層の学力を向上させることを目的に、学年全員がほぼ毎日同じ講義室で受ける医学科2年生を対象に、対面推奨学生選抜制度を採用した。

2022年度4月～7月の状況のアンケート結果について、学生にとっては本制度を否定的に考える人が多いことが分かった。教員側は、圧倒的に本制度に対して肯定的意見が多かった。

一方で、要改善点も明らかとなった。本制度の名称に関して、「推奨」ではなく「対面学生選抜制度」と変更すべきであること、選ばれなかった学生への配慮のための講義室のゾーニングである。さらに、この制度の目的について、選定基準と合わせて、学生に十分に周知徹底する必要がある。対面講義は知識を得ること以外に母校への帰属意識を持つことや、学内での集団行動を通して医療従事者として不可欠な社会性を修得できるという利点は非常に重要であり、今後も、感染対策期間中はこの制度を改良しながら運用していくべきと考える。

謝辞

対面推奨学生選抜制度の準備と運営に多大なご支援をいただいた医学部学務課教務係の松井博司氏、安岡嗣美氏に深謝いたします。

参考文献

蓮沼直子・服部稔（2021）「オンラインによる医療者教育（Vol.7） Web 会議システムを使ったオンライン講義 Teams、Zoom、WebEx 使い比べてみました」『医学のあゆみ』279 巻、233-240 頁。

松本直行（2021）「オンライン講義のリスクとベネフィット」『鶴見歯学』47 巻、33-38 頁。

大橋一徳・中谷有香・菅原詩織・山本清文・小林真之（2021）「歯学部での薬理学教育における対面講義とオンライン講義による学修成績の比較検討」『歯科薬物療法』40巻、73-82頁。